

晩生で多収良食味の水稲新奨励品種「鹿児島18号」	分類	普及技術
<p>〔要約〕「<u>鹿児島18号</u>」は、「はなさつま」に比べて出穂期で5日、成熟期で4日遅い普通期栽培用の<u>晩生種</u>である。「はなさつま」に比べて千粒重が重く、<u>収量性</u>が高い。耐倒伏性が強く、<u>脱粒性</u>は難である。食味は「ヒノヒカリ」に近い良食味である。</p>		
鹿児島県農業試験場・作物部	連絡先	099-268-3231

[背景・ねらい]

鹿児島県の普通期栽培地帯では、早生の「ヒノヒカリ」がうるち種栽培面積の約88%を占めているが、倒伏およびいもち病に弱い欠点の他、栽培地の拡大により高温登熟性が劣ることから玄米外観品質が問題となっている。また、晩生の「はなさつま」は玄米外観品質が優れるが、いもち病に弱く、脱粒しやすい(脱粒性“中”)欠点がある。このため、いもち病や倒伏に強く、収量性の高い良食味品種が求められている。

[成果の内容・特徴]

「鹿児島18号」は、鹿児島県農業試験場において、晩生、多収、耐病性、良食味を目標に、晩生、多収の「ミズホ」を母、良食味品種「ひとめぼれ」を父として、平成8年に人工交配した組合せから育成した。本系統の特性は以下のとおりである。

1. 「はなさつま」に比べて出穂期で5日、成熟期で4日遅い“晩生の晩”である(表1)。
2. 稈長は「ヒノヒカリ」よりやや短く「はなさつま」と同程度である。耐倒伏性は「ヒノヒカリ」より強く「はなさつま」と同程度である(表1)。
3. 「はなさつま」に比べて穂数はやや少なく、一穂粒数は同程度である。(表1, 表2)。
4. 止め葉は立ち、草姿は良い。
5. 脱粒性は「はなさつま」に比べて脱粒しにくく「ヒノヒカリ」と同程度の難である(表1)。
6. 玄米の千粒重は「はなさつま」や「ヒノヒカリ」に比べて重く、収量性は高い(表2)。
7. 玄米外観品質は、「ヒノヒカリ」より優れるが、「はなさつま」よりやや劣る(表2)。
8. 食味は「ヒノヒカリ」に近い良食味品種である(表3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本品種の適応地域は、県内全域普通期栽培地帯とする。
2. いもち病真性抵抗性遺伝子“*Pik*, *Pii*”をもつと推定され、現状ではいもち病の発生はみられないが、侵害菌の動向に注意する。
3. 晩生品種であるため、登熟期間がやや長いので早期落水は避け、収量および品質の向上に努める。

[具体的データ]

表1 出穂，成熟期調査および特性調査

項目 品種系統名	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 c m	穂長 c m	穂数 本/m ²	倒伏 程度	いもち		白葉枯 病検定	脱粒 性
							葉	穂		
鹿児島18号	9. 6	10. 21	72	19. 9	425	0. 0	0. 0	0. 0	やや強	難
はなさつま(指)	9. 1	10. 17	72	19. 5	449	0. 1	3. 6	2. 7	中	中
ヒノヒカリ(比)	8. 22	10. 2	75	19. 4	412	1. 4	2. 2	3. 9	弱	難
ミナミヒカリ(比)	8. 30	10. 16	72	21. 3	407	0. 2	3. 0	2. 4	やや強	やや易

注) 農試は奨励品種決定調査の標肥栽培の平成13年～17年の5カ年の平均値。倒伏程度は0(無)～5(甚)の6段階評価。いもち病はいもち病現地試験(さつま町)の値で0-10の11段階評価。

表2 収量及び品質調査

項目 品種系統名	わら重 kg/a	精籾重 kg/a	玄米重 kg/a	同左比 %	千粒重 g	一穂* 籾数	登熟* 歩合%	品質
はなさつま(指)	83. 4	68. 5	52. 6	100	20. 9	81. 1	58. 9	3. 0
ヒノヒカリ(比)	75. 4	67. 2	52. 0	99	21. 1	80. 0	55. 2	7. 5
ミナミヒカリ(比)	80. 1	71. 2	56. 7	109	22. 0	86. 0	65. 2	3. 8

注) 収量調査および玄米品質は奨励品種決定調査の標肥栽培の平成13年～17年の5カ年の平均値。

*: 一穂籾数・登熟歩合は平成17年の抜き取り株(1区5株)の調査値。

玄米品質は1等上(1)～3等下(9)，規格外(10)の10段階評価。

平成16年は台風16号(8/30)、18号(9/7)、21号(9/29)，平成17年は台風14号(9/5)の接近により収量，品質に影響が大きかった。特に晩生品種の減収程度が著しく登熟歩合，千粒重も低下した。

表3 食味調査

調査年月日	パネラー数	外観	香り	味	粘り	硬さ	総合評価
H13. 3. 28	13人	0. 31	-0. 08	0. 23	-0. 15	-0. 15	0. 23
14. 1. 16	15人	0. 07	-0. 20	-0. 07	-0. 07	0. 20	0. 00
14. 1. 25	12人	0. 08	-0. 17	0. 00	0. 42*	0. 08	0. 00
14. 12. 11	11人	0. 27	-0. 09	0. 00	0. 09	-0. 18	0. 00
15. 12. 16	14人	0. 14	-0. 07	-0. 21	0. 21	-0. 36	-0. 21
15. 12. 18	13人	0. 15	-0. 15	-0. 15	0. 38*	-0. 54**	-0. 15
16. 12. 15	6人	0. 00	0. 00	0. 00	-0. 17	-0. 17	-0. 17
17. 11. 4	13人	-0. 17	-0. 08	0. 25	0. 08	0. 08	0. 08
17. 11. 24	10人	-0. 20	-0. 10	0. 00	0. 20	-0. 30	-0. 10
17. 11. 30	9人	0. 00	0. 00	0. 11	0. 11	-0. 33	0. 00
17. 12. 2	10人	-0. 09	-0. 09	-0. 20	-0. 18	-0. 55*	-0. 18

注1) 基準はすべて奨励品種決定調査の標肥区ヒノヒカリを用いた。

2) 数値は+の方向に優り，-の方向に劣ることを示す。粘り・硬さは+の方向に強い・硬い，-の方向に弱い・軟らかいことを示す。*は5%，**は1%で基準に対して有意差があることを示す。

[その他]

研究課題名：普通期水稻新品種育成試験，農作物品種選定試験

予算区分：県単

研究期間：平成17年度(平成8～17年)

発表論文等：平成8～13年度普通期水稻育種成績書，平成14～17年度水稻奨励品種決定調査成績書

